

○国際会議における地産地消のプロモーションの取組

農観連携のモデル事例

「国際コモンズ学会世界大会」の開催（山梨県富士吉田市）

○国際コモンズ学会第14回世界大会（北富士大会）の開催にあたり、地元の自治体や組合等が協力体制を構築した上で、地元食材や伝統文化を活用したプログラムを作成し、地元の魅力をアピールした。

○事業主体 国際コモンズ学会北富士大会組織委員会

○会議概要

会議名称:国際コモンズ学会第14回世界大会（北富士大会）

日 程:2013年6月3日～7日

開 催 地:山梨県富士吉田市

参 加 者:国内外の研究者407人（56か国）

会議趣旨:入会地や共有地など「複数の人々が利用・管理する資源」の制度・組織・社会的仕組みについて研究発表する会議

○取組概要

地元小売店から地元食材を購入し、住民と協働でメニューを作成するなど、地元主体で食事提供を行った。また、ウェルカムレセプションは、「日本のお祭り」をテーマとし、郷土料理、B級グルメ等の縁日屋台を出店した。会場では、海外の参加者に対し、各メニューの背景やストーリーを十分に伝えることで、その土地の歴史文化や風土に対する興味を刺激するフードメニューを配布した。

○取組の成果

地元が一丸となって北富士地域ならではの魅力を最大限に活かし、食を通じて地域の歴史文化を伝え、国際交流を図った。



参加者に配布したフードメニュー表

